

1 塗装対象

屋内木部(天井、床、柱、腰板等)全般、木製建具

2 仕上げ

カラー	塗装後の仕上がり
KI01 枯茶色 ~ KI11 向日葵色	木目を活かす仕上がり(ふきとり塗装) / ツヤなし
	木目をつぶす仕上がり(塗りっぱなし塗装) / 2分ツヤ~半ツヤ

3 塗装工程

工程		塗料製品名	希釈剤 (希釈率%)	標準塗布量 (ml / m ²)	塗り回数	その他
事前準備	① サンプル	事前にサンプルを入手し、ご利用の木での試し塗りを推奨。(当社ホームページより入手可)				
	② 塗装する古材の確認	塗装する古材の経年状態を確認します。完全に朽ちた状態だと、塗装は不可です。灰色化・変色した古材は塗装可能です。				
	③ 汚れ取り	埃、水分、油分を除去し、ヤニは、研磨、溶剤処理にて取り除いてください。				
	④ サンドペーパー掛け	古材の経年状態に応じて、サンドペーパー(#180~240が目安)にて研磨してください。				
下塗り	⑤ 下塗り・目止め塗装	木守り専科 古民家再生塗料 下塗剤 (目止め・木材保護・塗装の下処理) ☞ 告示対象外製品。F☆☆☆☆と同様使用面積制限はありません。	無希釈	50	1回目	薄塗
	⑥ ふきとりなし+乾燥	古材に浸透させるために、塗りっぱなしで施工。下塗り後、約12~24時間乾燥させてください。必要に応じて2回目の下塗りを行ってください。				
塗装工程	⑦ 攪拌	使用前によく攪拌してください。(顔料が沈殿しているため、本来の着色性能を発揮するためにも、よく攪拌してください。)				
	⑧ 1回目 本塗装	木守り専科 古民家再生塗料 屋内用 (KI01 枯茶色 ~ KI11 向日葵色) ☞ 告示対象外製品。F☆☆☆☆と同様使用面積制限はありません。	無希釈	50~75	1回目	薄塗
	⑨ (ふきとり(不要))+乾燥	屋内では基本ふきとり、古材の吸い込みが大きい場合は、塗りっぱなしで施工。本塗装後、約12時間(塗りっぱなしは約24時間)乾燥させてください。				
	⑩ 2回目 本塗装 (吸い込みが大きい場合)	木守り専科 古民家再生塗料 屋内用 (KI01 枯茶色 ~ KI11 向日葵色) ☞ 告示対象外製品。F☆☆☆☆と同様使用面積制限はありません。	無希釈	25~35	2回目	薄塗
	⑪ (ふきとり(不要))+乾燥	古材の吸い込みが大きい場合、1回目の塗装が完全に乾いた後、1回目と同様に2回目を塗装。約24時間乾燥させてください。				

4 注意事項

- ① 下塗り、本塗装は、刷毛(市販の油性塗料用で、豚毛、馬毛等やや硬めのコシの強いもの)、またはコテバケ等で、薄く均一に行ってください。
- ② 塗装用具の洗浄には「U-OIL クリーナー」をご利用ください。(いずれもパンフレットを参照)
- ③ 古材への塗装の際に、下塗剤なしの本塗装のみで仕上げることも可能ですが、色ムラ、本来の色が表現できないことがあります。また、標準塗布量よりも多く塗料を必要とする場合があります。
- ④ 夏場の高温時は乾燥が速まる場合がありますので、ふきとり仕上げの際は早めのふきとりをおすすめします。長い時間放置すると塗料が乾燥し、色ムラになることがあります。
- ⑤ 冬場の低温時、湿度が高い時は、乾燥が極端に遅くなる場合がございますので、その際は長めに乾燥時間を取ってください。
- ⑥ 古材にヤニ、カビ等が付着したまま塗装を行うと、表面に浮き出てくる場合があります。除去した上で塗装を行ってください。
- ⑦ 経年の具合によっては、木の導管が広がっている影響で、上記塗装方法でも塗装が沈んでしまい、思った仕上がりにならない場合があります。その際は、塗装回数を増やす等、仕上がりを確認しながら行ってください。
- ⑧ 使用した刷毛、コテバケ、ふきとりに使用した布(ウェス)等は自然発火の恐れがありますので、水を含んだ状態、または焼却にて処分してください。

